



最初にお読みください

## CentreCOM® GS908SS/916SS/924SSリリースノート

この度は、CentreCOM GS908SS/916SS/924SS をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

### 1 ファームウェアバージョン 1.6.19

### 2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.5.0 から 1.6.19 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

#### 2.1 SNMP エージェント

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「SNMP」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「アクセスフィルター」](#)

- 本バージョンより、SNMP 機能をサポートしました。ただし Trap 送信はサポートしていません。対応する MIB は MIB-II のみです。
- SNMP 機能の追加に伴い、アクセスフィルターのフィルター条件で SNMP を選択できるようにになりました。

### 3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.5.0 から 1.6.19 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 本製品自身が生成する LDF パケットが送出される時、同時に送出されるパケット数が 5,9,13,17,21 の場合、送信バッファが枯渇し、本製品宛での通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 オンラインヘルプにおいて、以下の項目を修正しました。
  - ・ Help Disable IP のヘルプの表記が正しくない
  - ・ 日本語解説の改行位置が正しくない
  - ・ トピックの表示がアルファベット順ではない
  - ・ SET CONFIG コマンドの書式が正しくない
- 3.3 電源オン時、起動に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 コンソールにログインした直後にログアウトすると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 3.5 本製品宛での通信で使用する割り込み処理が無効のままとなり、本製品宛での通信ができなくなる可能性がありましたが、これを修正しました。
- 3.6 本製品宛での通信に負荷をかけた状態で SHOW DEBUG コマンドを繰り返し実行すると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.7 フラッシュメモリーの容量不足で CREATE CONFIG コマンドが失敗したとき、指定したファイルがすでに存在する場合、そのファイルが削除されていましたが、これを修正しました。
- 3.8 FTP クライアントでホスト種別を自動判別にした場合、本製品に正しく FTP 接続できないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.9 PURGE LOG および FLUSH LOG OUTPUT コマンド実行直後に、SHOW LOG コマンドに TAIL を指定して実行すると、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 3.10 SHOW LOG コマンドにおいて、TAIL パラメーターで指定した件数のログが表示されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.11 SNTP モジュールを無効に設定したあと RESET NTP コマンドを実行すると、Last Updated と Last Delta の値が初期化されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.12 SET CONSOLE コマンドの PAGE パラメーターに OFF (または 0) を指定していると、Ctrl/C (Ctrl キーを押しながら C キーを押す動作) で画面出力を中止できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.13 Telnet ログイン時、画面にイベントメッセージが表示されている最中に、Telnet 切断や新たな Telnet 接続が行われると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.14 SET ACCESS FILTER ENTRY コマンドのエラーメッセージでフィルター名が正しく表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.15 IP アドレスの設定時に、IP アドレスをチェックする処理で Mask パラメーターの値をチェックしていないため、不正メモリーアクセスを行う場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.16 デフォルト VLAN 以外の VLAN に所属するポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで ACCEPTABLE パラメーターに VLAN を指定し、設定を保存後本製品を再起動すると、起動時に「Port X does not belong to the VLAN specified」というエラーが表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.17 すでにトランキング対象として設定済みのポートを再度トランクポートとして設定した場合のエラー表示が、条件によって異なっていましたが、これを修正しました。

- 3.18 DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効にしたポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED パラメーターを正常に設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.19 EAP 透過機能有効時、タグなしポートからタグ付きパケットが送出されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.20 ループガードの LDF 検出において、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの SECURE パラメーターに ON を指定した場合、LDF の送信から受信までに 1 秒以上かかると、受信すべき LDF を破棄していましたが、これを修正しました。
- 3.21 ループガード（LDF 検出 / 受信レート検出）において、BLOCKTIMEOUT パラメーター（自動的に実行前の状態に戻るまでの時間）に NONE が指定されていると、アクションでディセーブルになったポートに対してケーブルの抜き差しをしても、実行前の状態に戻りませんでしたが、これを修正しました。
- 3.22 SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE を指定して実行すると、コンポポートがリンクアップしないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.23 リンクアップしているコンポポートに対して、フローコントロールを有効に設定すると、該当ポートがリンクダウンしていましたが、これを修正しました。
- 3.24 本体宛ての通信負荷が高い場合に、本体発のペケットを送信できなくなり、結果的に本体宛て通信が不通になることがありましたが、これを修正しました。
- 3.25 ネットワークループなどにより、ARP などのパケットの受信に負荷がかかっているとき、不特定のポートカウンター情報が異常な値となる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.26 IGMP Snooping において、始点 IP アドレスが 0.0.0.0 で、同一 MAC アドレスの IGMP Report メッセージを複数回続けて受信すると、受信の際にグループのタイマーが更新されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.27 IGMP Snooping のルーターポートとトランクポートが同一ポートで併用されていると、ループ登録後、IGMP Leave メッセージを受信してもルーターポートに転送されませんが、これを修正しました。
- 3.28 Authenticator ポートにゲスト VLAN と Piggy back モード有効（PIGGYBACK=ENABLED）の設定がされているとき、Supplicant からの応答がタイムアウトすると、ゲスト VLAN 所属ポートであってもゲスト VLAN 内での通信ができませんが、これを修正しました。
- 3.29 RADIUS サーバーとゲートウェイを越えて認証を行う環境において、RADIUS 応答パケットの送信元 IP アドレスがゲートウェイのアドレスの場合、Supplicant が接続されている状態で本製品を再起動すると、本製品がリポートを繰り返していましたが、これを修正しました。

- 3.30 Web GUIにおいて、以下のポート認証画面でPiggyBack設定が無効である場合も選択できてしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。
- ・ 認証方式 802.1X で Multi 設定の場合
  - ・ 認証方式 Auto に設定後、設定したポートに対してポート設定画面を開いた場合
  - ・ 認証方式が 802.1X 以外、かつ、Multi モードに設定後、設定したポートに対してポート設定画面を開き、認証方式を 802.1X に選択した場合
- 3.31 SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで、「Tab」キーを押下したときに表示される、次に選択可能な候補にないオプションが入力できてしまいましたが、これを修正しました。
- 3.32 SHOW CONFIG コマンドなどで複数画面に渡る情報を表示中に、Web GUI で設定を変更するとリポートが発生することがありますが、これを修正しました。
- 3.33 Web GUI に対して、ログイン失敗などの不正アクセスを一定回数繰り返すと、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 3.34 Web GUI のポートステータス表示画面において、コンポポートの極性自動認識 (AutoMDI) に「Enable」、極性 (Polarity) に「MDI」が表示されていましたが、コンポポートでは MDI/MDI-X の設定変更はできないため、「Not applicable」が表示されるよう修正しました。
- 3.35 Web GUI の「ポート認証 - ポート設定」画面において、Authenticator または Supplicant ポートの設定を行うときに、指定ポートに併用不可機能が設定されているポートが含まれていても、エラーにならずに設定ができていましたが、これを修正しました。(ミラーポート、トランクポートは、Authenticator/Supplicant ポートに設定できません。また、スタティックエントリー登録ポート、ポートセキュリティ有効ポート、コンポポートは Authenticator ポートに設定できません。)
- 3.36 Web GUI の「ポート認証 - ポート設定」画面において、モードを Single、かつ、ダイナミック VLAN を Disabled に設定し、いったん別画面を表示後、再度ポート設定画面に戻ると、ゲスト VLAN の VLAN 名が入力不可の状態 (グレーアウト) になりましたが、これを修正しました。
- 3.37 Web GUI の「機器監視 - FDB」の画面項目において、「トランクグループ名 (ID)」を「トランクグループ名」に修正しました。(Web GUI では、トランクグループ ID の指定はできません。)
- 3.38 Web GUI の「機器監視 - システム情報」の「詳細情報表示」ボタンをクリックしたときに表示される「システム - 詳細表示」で情報が一部欠落していましたが、これを修正しました。
- 3.39 Web GUI において、「機器監視 - ログ」 - 「ログ表示条件」の「表示件数」に「#」を入力して「ログ表示」または「ログ保存」をクリックすると「500 Internal Server Error」が表示されていましたが、これを修正しました。

## 4 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 1.6.19 には、以下の制限事項があります。

### 4.1 製品内部が高温時の温度状態表示

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品内部の温度が高温のとき、ログが出力されていても SHOW SYSTEM コマンドで表示される Temperature が Warning にならないことがあります。

### 4.2 フラッシュメモリーの空き容量

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

### 4.3 SNMP

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- SHOW INTERFACE コマンドで表示される ifMTU の値および SNMP で取得可能な ifMTU の値が正しくありません。9196 と表示されますが、正しくは 9194 です。

### 4.4 RADIUS サーバー

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。SET RADIUS コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ = デフォルト）の場合、本現象は発生しません。
- ポート認証で RADIUS サーバーを 2 台登録し、2 台の RADIUS サーバーの共有パスワード（SECRET パラメーター）を異なる文字列に設定すると、認証に成功しない場合があります。ポート認証で 2 台の RADIUS サーバーを利用する場合は、SECRET パラメーターに同じ文字列に設定してください。

### 4.5 ポート認証

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

SET RADIUS コマンドで DEAD-ACTION=PERMIT、DEADTIME=0 を設定した場合、認証に失敗することがあります。

### 4.6 アクセスフィルター

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「フォーワーディングデータベース」

DELETE SWITCH FILTER コマンド（または Web GUI の「機器監視 - FDB」）で、登録されているスタティックエントリーの削除を実行すると、削除失敗のエラーが表示されるにもかかわらず、スタティックエントリーは削除されます。

---

## 4.7 スイッチング

 **【コマンドリファレンス】 / 【スイッチング】**

スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTOのいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-upメッセージが表示されないポートがあります。

---

## 4.8 受信レート検出

 **【コマンドリファレンス】 / 【スイッチング】**

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

---

## 4.9 IGMP Snooping

 **【コマンドリファレンス】 / 【IGMP Snooping】**

IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。

---

## 4.10 Web GUI

 **【コマンドリファレンス】 / 【Web GUI】**

- 存在しないRADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。本現象は、CLI では発生しません。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。
- 「マネージメントポートリセット」画面において、通信速度が 10Mbps または 100Mbps のトランクポートを複数ポート指定してリセットした場合、link-down/link-up を検知できず、link-down、link-up メッセージが表示されない場合があります。10Mbps または 100Mbps のトランクポートのリセットを実行する場合には、Web GUI ではなく、コンソールまたは Telnet 接続からコマンドで実行してください。

## 5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

---

取扱説明書、および「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.6.19 (613-000924 Rev.D)」の補足事項です。

### 5.1 SNTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNTP」

登録された SNTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

### 5.2 IP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

### 5.3 スイッチング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。
- EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されません。
- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリーとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。

- スイッチポートの通信速度を固定設定している場合、該当ポートがリンクダウンしていても、同一 VLAN に所属する他のポートでブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習ユニキャストのいずれかのパケットを受信すると、該当ポートの送信カウンターがカウントアップします。

---

#### 5.4 ポートミラーリング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

---

#### 5.5 パケットストームプロテクション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

---

#### 5.6 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP SNOOPING TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛ての Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

---

#### 5.7 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Supplicant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。
- Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。



## 6 未サポート機能 (コマンド)

---

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
ENABLE QOS
DISABLE QOS
SHOW QOS
RESET PORTAUTH PORT
ENABLE WATCHDOG MEMORY
DISABLE WATCHDOG MEMORY
SHOW WATCHDOG
ENABLE WATCHDOG MEMORY
DISABLE WATCHDOG MEMORY
SHOW WATCHDOG
ADD SNMP COMMUNITY=community [TRAPHOST=ipadd] [TRAP={COLDSTART|WAR
MSTART|AUTHENTICATION|LINK|FAN|TEMPERATURE|VOLTAGE|LOGIN|NEWROOT|T
OPOLOGYCHANGE|LOOPDETECTION|STORMDETECTION|EFSR|ALL}]
CREATE SNMP COMMUNITY=community [TRAPHOST=ipadd] [TRAP={COLDSTART|W
ARMSTART|AUTHENTICATION|LINK|FAN|TEMPERATURE|VOLTAGE|LOGIN|NEWROOT
|TOPOLOGYCHANGE|LOOPDETECTION|STORMDETECTION|EFSR|ALL|NONE}]
DELETE SNMP COMMUNITY=community [TRAPHOST=ipadd] [TRAP={COLDSTART|W
ARMSTART|AUTHENTICATION|LINK|FAN|TEMPERATURE|VOLTAGE|LOGIN|NEWROOT
|TOPOLOGYCHANGE|LOOPDETECTION|STORMDETECTION|EFSR|ALL}]
DISABLE INTERFACE LINKTRAP
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP
DISABLE SNMP TRAP
ENABLE INTERFACE LINKTRAP
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP
ENABLE SNMP TRAP
SET SNMPTRAP LISTENPORT
SHOW SNMP TRAP
ADD IGMP Snooping
DELETE IGMP Snooping
ADD MLDSNOOPING VLAN
CREATE MLDSNOOPING VLAN
DELETE MLDSNOOPING VLAN
DISABLE MLDSNOOPING
ENABLE MLDSNOOPING
SET MLDSNOOPING TIMEOUT
SET MLDSNOOPING VLAN MCGROUP
SET MLDSNOOPING VLAN ROUTERPORT
SHOW MLDSNOOPING
SHOW CONFIG DYNAMIC=MLDSNOOPING
```

```
ADD EPSR DATAVLAN
CREATE EPSR
DELETE EPSR DATAVLAN
DESTROY EPSR
DISABLE EPSR
ENABLE EPSR
PURGE EPSR
SHOW EPSR
SHOW EPSR COUNTER
SHOW CONFIG DYNAMIC=EPSR
SET CONSOLE [COMPLETION={BOTH|TAB|SPACE|OFF}]
SET SWITCH PORT={port-list|ALL} [SPEED={1000MFULL}]
SHOW CRASHLOG
```

## 7 コマンドリファレンスについて

---

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.6.19」（613-000924 Rev.D）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

※パーツナンバー「613-000924 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>